



[発行]
南房総教育事務所指導室
平成28年9月1日
第4号

体育科・保健体育科における言語活動について

平成28年度千葉県小・中学校教育課程研究協議会を、7月26日・29日の両日に開催いたしました。その中で、共通して話題になったのは、「体育科・保健体育科における言語活動はどうあるべきか?」という点でした。

1 体育科・保健体育科における言語活動 (中学校学習指導要領解説保健体育編から)

体育については、「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的発達」を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、・・・」

つまり、体育科・保健体育科における言語活動が担う点は、「コミュニケーション能力の育成」と「論理的思考力をはぐくむ」ことにあると言えます。

2 言語活動で身につけさせたい力

- 課題を見つけ、それを解決するために、協力して学び合う力。
- 話し合ったり考えたりした事を言語や身体で表現し、相手に理解させる力。
- 自分や友達の動きを具体的に振り返り、次のめあてにつなげることができる力。
- 知識を活用する学習活動を取り入れ、論理的に考え、判断し、表現する力。

(1) 運動領域

- ① 集団的活動で互いに励まし合ったり、相手チームの健闘を称えたりして、協力して学び合う活動を設定する。
- ② 運動量を十分に確保した上で、言語活動の場を設定する。

体育科・保健体育科においても、言語活動の充実は重要である。しかし、体育の授業は、身体活動を通して学ぶことが基本であるため、運動量が減少してしまうことは避けたい。言語活動の「量」ではなく、「質」の向上を目指すことが望まれる。

(2) 保健領域

- ① 生涯にわたって自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成するための活動の充実を図る。
- ② 言語活動においては、「話し合い活動」や「教え合い活動」を取り入れた学習過程を工夫する。

3 体育科・保健体育科における言語活動の3つの視点

【視点1】 目的を持たせた言語活動を展開する。(どこで, 何を, どのようにして)

- (1) 見通し設定
- (2) 学習環境の整備
 - ・めあてにあった場の設定
 - ・めあてにあったルール作り
 - ・学習カード, 教材の工夫
- (3) 発問の工夫

【視点2】 表現し, 交流する言語活動を重視する。

- (1) 運動を行う中で教え合い・励まし合う場の設定
- (2) 学習形態の工夫
- (3) 保健学習におけるブレインストーミングやディスカッションの活用

【視点3】 学習プロセスを振り返る。

- (1) 自己評価・相互評価の工夫
 - ・学習カードを用いて
 - ・話し合いの中で
- (2) 振り返りを次のめあての設定
 - ・より具体的に記入させる

4 言語活動と運動活動量のバランス

【言語活動の具体例】

① 仲間との話し合いの場面で

- ・ 作戦を話し合う
- ・ 練習方法を話し合う
- ・ ルールづくりを話し合う
- ・ 課題解決に向けて話し合う

② 仲間と教え合う場面で

- ・ 運動のポイントを教え合う
- ・ 技や演技のできばえを教え合う

③ 仲間に声をかける場面で

- ・ 仲間に励ましの声をかける
- ・ 仲間に賞賛の声をかける



言語活動の「量」ではなく、
「質」の向上を目指す

【体育授業での課題】

- ・ 指導内容の確実な定着
- ・ 体力の向上



「運動活動量の確保」は不可欠



「運動活動量の確保」と共に
「運動の質」の向上

量的・質的なバランス

体育の目標を達成するための「手立て」として、「言語活動」をとらえる

《引用・参考文献》

中学校学習指導要領解説保健体育編、千葉市教育委員会資料、熊本県教育情報システム内研究報告

(担当：指導主事 平 一晶)